

中海・宍道湖・大山に代表される豊かな自然、神話に彩られた歴史・文化を継承しながら、一層の交流と連携を育むことにより、新しい産業や文化などの地域資源を創造し、人々の元気と魅力にあふれる未来を紡ぎます。

さあ、新たなステージへ

目次

はじめに	1
基本方向	3
圏域交通マップ	5
10年間の取組	7
人口と産業	9
各市紹介	13

はじめに

中海・宍道湖・大山圏域市長会は、中海・宍道湖沿岸の5市の首長と、鳥取県西部町村会長をオブザーバーとして、圏域の連携強化と一体的な発展をめざし、平成24年4月に結成され、令和3年度は結成から10年が経過する節目の年となります。

本圏域は、ラムサール条約の登録湿地である「中海」や「宍道湖」、そして中国地方最高峰の「大山」など豊かな自然、神話の時代から脈々と続く歴史・文化、様々な特色のある産業がバランスよく集積しています。市長会では、結成直後に、このような、圏域の特性や、日本海側の都市圏における高い潜在能力、構成各市が有する特徴的な資源や優位性をいかした連携を推し進める、「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」を策定しました。このなかで、圏域内で活動する住民・NPOや各種団体、企業、行政などの各主体が共有する圏域の将来像、共通の目標及び方向性を示し、圏域振興の指針を提案するとともに、振興ビジョンに掲げた、圏域発展を支える4つの柱である、産業振興、観光振興、環境の充実、連携と協働に取り組んでまいりました。特に圏域の経済界と一体となった、圏域のブランド化の推進や新産業の創出、ビジネスにおける海外展開の支援等、地方創生に資する様々な事業を実施し、数々の実績を残してきたところでございます。

一方昨今のわが国では、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、社会の仕組みや、人の価値観が大きく変わり始めています。特に様々な分野でデジタル化が進み、IoT、ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータといった新たな技術の発展により、行政の在り方、住民の生活様式が大きく変わり、地域課題も更に多様化、複雑化し、個々の自治体だけでは解決できない課題も更に増えてきます。

中海・宍道湖・大山圏域市長会では、このような社会情勢の変化を踏まえ、圏域の経済界、高等教育機関等、様々な団体が一体なって進むべき、新たな指針を示すため、「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」を改訂することといたしました。新ビジョンでは、この10年間で蓄積した圏域発展のノウハウを土台とし、新たに「地産外商による稼ぐ圏域の実現、観光地域づくりの充実、グリーン社会の実現、圏域8の字ルート等の整備促進、デジタル社会に対応した基盤整備と人材の育成」といった方向性を加えております。

こうした方向性を実現していくためには、行政だけではなく、圏域内で活動する住民の方々や各種団体、企業など多様な主体が相互に協力関係を築き、共に推進していくことが不可欠と考えております。本圏域の発展に向け、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本振興ビジョンの改訂にあたり、貴重なご意見、ご提言をお寄せいただきました方々をはじめ、本市長会に関わっていただいているすべての方に心よりお礼申し上げます。

令和4年3月

中海・宍道湖・大山圏域市長会

会長	安来市長	田中 武夫
副会長	米子市長	伊木 隆司
副会長	松江市長	上定 昭仁
	出雲市長	飯塚 俊之
	境港市長	伊達 憲太郎